

[カー用品専科・月刊誌]

いまの狙い目はずばり、ココ!
[カーグッズマガジン]



2022
9

September
定価 660 yen
(税込)

2022年7月15日発売
(毎月17日発売)

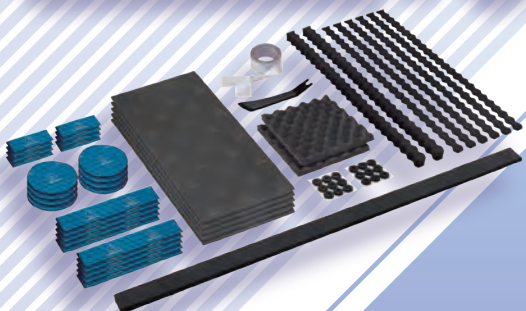
Car Goods Magazine

www.cargoodsmagazine.co.jp

進化と拡充。旬のコンビネーション

特集 ▶ 音と映像を制御せよ!

CarAV ADVANCE



欲しいものに すぐ 直送便!

[2022年・夏]
主要銘柄セレクション

EngineOil MASTER 型録

8月2日は **Pick Up**
オートパーツの日!

CarGear FRONTLINE



販売現場
直送便!

電子デバイス

クルマの電子制御化が著しい昨今、サスペンションにもその波が押し寄せている。走行条件に合わせて乗り心地を変えられるダンパーが登場しているのだ。ここではブリッツが提案する、新世代の車高調キット『ZZ-Rダンパー スペックDSCプラス』をクローズアップ。

業界初のオートモードで理想の走りが手に入る！

幾つもの調整要素があるうえにドライバーの好みもあるサスペンション。正解がない世界なだけに、どこに焦点を絞ってセッティングを詰めるべきか悩み所だ。特にスポーティな走りや快適な乗り心地は、相反する要求となるため、両立させるのが難しいと言われてきた

そうした定説を覆したのが減衰力可変式のダンパーだ。走行状況に応



走行状況や乗車人数に応じて 乗り心地を自動コントロール

じて減衰力をアクティブに変化させることで、最適な乗り心地を実現する。いまや高級車やハイエンドスポーツに欠かせない存在となっている。ブリッツがリリースする「ダンパーZZ-RスペックDSCプラス」は、そうした思想を取り入れた新世代の車高調キットである。その特徴は、業界初となるフルオートモードを搭載していること。ユニットに搭載するGセンサーなどにより、クルマの姿勢の変化を検知。ブリッツ独自の制御プログラムにて自動的に減衰力を調整してくれる。

だから乗車人数が変わっても、走行シチュエーションが違っても運転しやすいし、乗り心地は快適なまま。ミニバンの2、3列目シートに座っても突き上げ感が抑えられるので、同乗した奥さんから苦情が出る心配もな

いし、子どもが酔ってしまいうこともなく楽しくドライブできる。

減衰力を変更するコントローラーが車内に設置されるのも大きなメリットだ。近頃の新型車は、その構造上、減衰力調整ダイヤルに手が届きにくいケースが多い。なかにはカバーで覆われてしまっているため、一度装着したら変更不可能に近い車種もあるほど。

でもダンパーZZ-RスペックDSCプラスなら、車内からボタンひとつで減衰力を変更できる。万が一、家族から乗り心地が悪いと苦情が来ても、即座に対応できるといってわけ。

もはやデメリットは見当たらない。ブリッツの新世代車高調ならローフォルムのまま、ワンランク上の走りと快適な乗り心地を両立できる。理想のサスペンションといえる。

車内から減衰力を自在に調整できる



BLITZ DAMPER ZZ-R SPEC DSC PLUS

価格：26万4000円～
(新型ノアハイブリッド用/8月発売予定)

特許取得済みのオートモードを搭載した、新世代の車高調キット。新型モーターにて、最大96段階の減衰力を自在に変更可能。新型ノア/ヴォクシー用は鋭意開発中。写真はアルファード用だ。

何も我慢せずに実現できる スタイリッシュなローフォルム



新型車はダンパーの取り付け位置が奥まっているモデルも多い。一般的な車高調は減衰力調整ダイヤルに手が届きにくく、宝の持ち腐れになるケースも…。車内から減衰力変更できるスペックDSCプラスならそんな問題も解決だ。

ピストン径が大きく、微細な速度域から減衰力を立ち上げやすい単筒式ダンパーを採用。車種別にセッティングされており、街乗りから高速道路、峠まで幅広いシチュエーションに対応する。試乗した新型ノアのバネレートはフロント6kg/mm、リア5.5kg/mmだが、開発中のため変更される可能性もあり。



2.5インチVA液晶を搭載するコントローラーに、4輪の減衰力が表示される。自分好みの硬さをメモリしておくこともできるので、素早く最適な乗り味にできる。ロータリーエンコーダーの採用で、直感的な操作が可能だ。



自分好みの車高にアレンジできるのも車高調のメリット。ブリッツのダンパーZZ-Rシリーズでは車高を変えてもダンパーのストローク量が変化しない全長調整式を採用。ローダウンしても乗り心地は快適と評判だ。

業界初 自動で車両の姿勢変化を保つフルオートモード



乗車人数や走り方に応じて減衰力を自動調整してくれるフルオートモードのほか、より細くセッティングできるマップ制御モードも用意。合計22のモードを備えており、セッティングを手軽に楽しめる。

SCOOP!

話題のレーザー探知機に2モデルが追加される!

ブリッツが新たに展開中のレーザー&レーザー探知機「タッチブレインレーザーシリーズ」。最新のレーザー式移動オービスにも対応するハイスペック仕様で、GPSデータの更新もずっと無料。OBD II接続すれば、多彩な車両情報を表示するマルチメーターとしても使用できるのも魅力だ。そのラインアップに2モデルが仲間入り。ますますニーズに合ったモデルが選びやすくなった。

セパレートタイプのTL311Sは、3.1インチサイズの液晶を搭載。レーザー受光部を別体式とすることで、取り付けの自由度を高めているのが特徴。



BLITZ
Touch-
B.R.A.I.N.
LASER
TL311S
価格：4万6200円



BLITZ
Touch-
B.R.A.I.N.
LASER
TL401R
価格：4万1800円

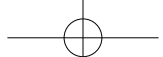
業界最大級となる4インチ液晶を採用。美しいグラフィックが映えるTL401R。多彩な車両情報もより見やすくなっており、マルチメーター機能も使い倒せる。



新型ノアハイブリッド 市街地インプレッション



試乗したのは新型ノアハイブリッド。19インチタイヤだし乗り心地はちょっと厳しいかな～と思いきや、走り出しから快適そのもの。不快な突き上げ感もなく、車高調が入っていることを忘れてしまうほど。これではテストにならないとちょっと乱暴に加速したり、強めにブレーキをすると減衰力が変化。クルマの揺れを抑える方向に自動調整してくれているのではないかな。最新制御の可変ダンパーの実力、恐るべしだ。



アフターパーツ 解体新書

スマホとの連携やGPSをそなえたOBD IIモニター機

OBD IIモニターの世界は長いですが、その間にクルマの電子制御は進み、スマートフォンが普及し、世の中のIoT化も進んだ。電脳集団BLITZは、ただ車両データを表示するだけでなく、スマートフォンと連携し、GPSも活用し、クルマ遊びをフルに楽しめるOBD IIモニターを開発した。

まとめ：斉藤精一郎

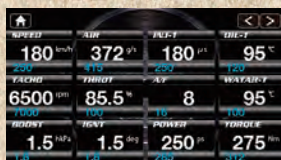


BLITZ Touch-B.R.A.I.N. +
価格：7万7000円

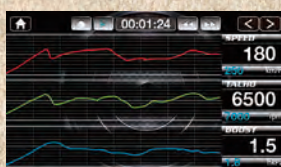
OBD IIコネクタを持つかまざまな車種に接続して、車両データを取得するほか、いろいろな楽しみかたができる汎用のマルチデバイス。本体は4.3inch静電容量タッチパネルのモニター画面を持ち、無線LAN、GPS、Gセンサー等を搭載している。



iOSのアプリを使えば、スマートフォンで撮影した車載画像と、車両から取得した各種データをシンクロさせた動画を作成できる。



車速、エンジン回転、ブーストなど、車両の様々な情報を取得して表示できる。表示させる項目の数やグラフィックも変更できる。



取得したデータをロギングし、このようにグラフ表示することも可能。サーキット走行などのあとに振り返ることもできる。



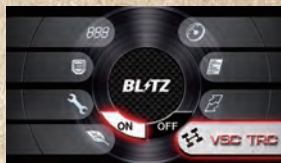
国内主要サーキットのスタートポイントのGPSデータは収録済みのため、サーキット走行で簡単にラップタイム計測ができる。



燃費に関するデータも表示可能。日々の燃費モニターやエコ運転の参考など、スポーツ走行以外の目的にも活用できる。



対応する車種の場合は、OBD IIの故障診断機能で、車両に残っているトラブルコードの読み取りや消去も可能だ。



86/BRZ (ZN6/ZC6)では、車両本体のボタン操作では不可能なVSCとTRCの完全カット状態にすることも可能。

現代のクルマはOBD IIといわれる端子を備えていて、専用の機器を接続すると、水温、吸気温度、過給圧など、さまざまな車両の情報をリアルタイムに読み出すことができる(項目は車両によって異なる)。

このデータをディスプレイに表示させるOBD IIモニターは、以前から市場に存在した。ブリッツでもタッチパネルを採用した「タッチブレイン」をリリースしていたが、そのブリッツが、現代にふさわしく、高度に先進化し、様々な楽しめる機能を持たせた新型OBD IIモニター

車載動画と 車両情報の動画を生成

「タッチブレイン・プラス」を発売した。

まず、モニターが薄くなりつつも大型化され、より高精細な表示が可能となっている。

そして特筆すべきは無線LAN機能を搭載することで、スマートフォンとの連携が可能になったことだ。

本体ファームウェアのアップデートが簡単になったほか、ログデータのやりとりや保存が可能になった。そして、iOSのアプリと連携することで、スマホカメラで撮影した車載動画と、タッチブレイン・プラスで

現代のIT技術と結合した クルマ遊び用モニターの決定版

取得した車両データを合成した動画を自動生成することも可能になった。

また、本体にはGPSセンサーを搭載して、国内主要サーキットのGPSデータを収録しているため、サーキットを選択するだけで簡単にタイム計測もできる。

本体Gセンサーを使った表示やタイムトライアル機能を備えるほか、車種によっては、VSC/TRCの完全カットや、故障診断項目の表示や消去も可能になっている。

多岐にわたるクルマ遊びに活用できるスグレモノだ！